

Works | 作品

全国からの応募作品99点の中から、厳正な審査によって選ばれた28組の作家と招待作家2組を加えた30組の作品が、木津川市瓶原地域、20会場にて展示されました。

深尾尚子

うさぎ / 立体造形・インスタレーション



とうとうと流れる雄大な木津川を今、まさに飛び越えて行きそうなうさぎ。瓶原の山から一気に駆け降りてきたような迫力あるリングに思わず窓を開けてあげたくなる。

LEXTRIBE Creators population

Sensitivity / プロジェクションマッピングを使ったパフォーマンス



かわいかつのり

よりしるとケサランパサラン / 野草の綿毛による立体インスタレーション



花の香りとプロジェクションマッピングによって誰にも邪魔されない純粋な感情が湧き出す。ガレージの2階を隠れ家のように仕立てた桃源郷パフォーマンス。

足を踏み入れた瞬間、羽毛のようにケサランパサランは舞い上がり、つかみようがない。捉えることができたなら幸せになるというが。

協力：有限会社アズリアル / 木の津ウェルダース / リマインドダンスファクトリー / TWO GOOD



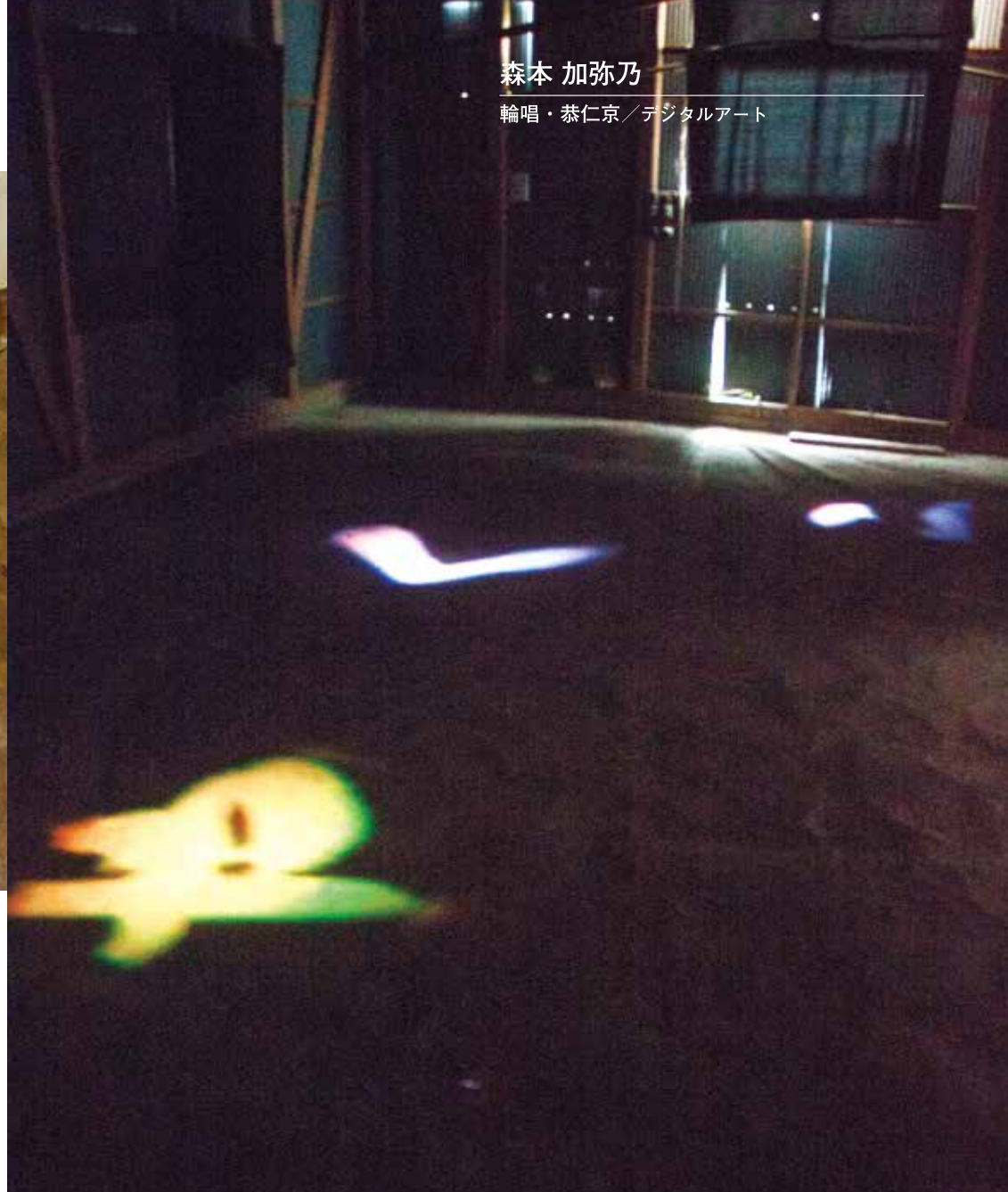
美しい瓶原の風景に溶け込むように、「風が心地良い空間には心地よい作品を」と作られた陶芸作品。浴槽に浮かんだ作品群は子供たちに「お尻お尻」と好評。



恭仁宮跡に群生するセイタカアワダチソウ、恭仁京があった頃には生えていなかったはず。その葉を抜き去り、原寸大の箱庭を再現した作品。



ここで採取した土と粘土を使い、板にして作品を制作。詩人のように形にしておく。やがて、ひびが走り、形が変化して土に還っていく。まるで何ごととも無かったかのように。



恭仁京をうたった家持のうたを子供たちはみんな知っている。子供たちは誇りをもってうたを筆で書き、朗読してくれた。その文字の形を光にし、音声ファイルにした声と合わせて作品とした。

協力：藤村書道教室

大橋 史人

かすが おとづれ おとづれあん うつ ま
霞処の音連 音連庵 空ノ間 / 木材と藁などによるインスタレーション



神が来るとき風を連れて来る。風には音があり、ひとは風の声で神が訪れたことを知る。天と地のいのちの循環を導き出す参道。

協力：橋本建築／寛介／加茂自然農園／ミカノハラ陶工舎／楽土窯／轟茶

雫プロジェクト

しずくの家 / 水をイメージしたインスタレーション



しずくの家は南側の縁側から心地良い風が入り、おくどさんの雫もゆらゆらと揺れていた。ずっと昔から存在する雫を「家」という媒介を通して見せてくれた。

画材提供：ホルベイン画材株式会社



太古の時代から水のあるところはひとの集まる場所であり、情報が行き交う場所でもあった。その場所にふさわしい絹の糸で編んだ台は繊細な光で過去と今を紡ぐ。



複雑に組み込まれた骨組みと絵は、時間、風、光によって浮かび上がり表情を変える。変化する色と影は見る者の感情を呼び起こす。

画材提供：ホルベイン画材株式会社 / 木材提供：尾崎林産工業株式会社
 設営協力：(株)POS 建築観察設計研究所



瓶原の風景を閉じ込めるかのような不思議なかたち、中を覗けば古よりこの地で交わってきた五方からの道を、かつてこの地にあった大極殿を飾った五色幕の彩りの層で施されている。



放置された茶畑は中世の城跡を彷彿させ、空想の中で古戦場を思い描く。近くには柿の木もあり、おとぎばなしの猿蟹合戦か。

画材提供：ホルベイン画材株式会社

中村 幹史

時の痕跡 / 絵画

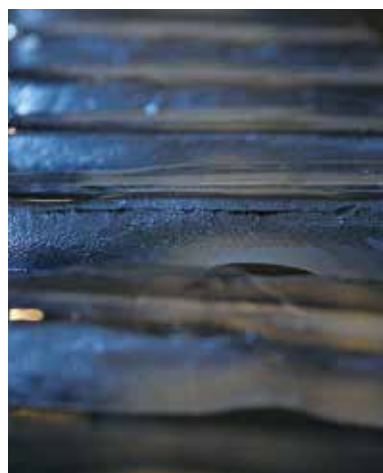


瓶原で感じた歴史の重みとひとびとの暮らし。この地で採取した粘土を使い作品に仕上げた。1300年前と同じ光が窓から入って表情が変わる。

Chakky Kato

O-Kudo-San + Glass marimba

ガラスのマリンバによるインターベンションパフォーマンス



外と内の境界でもある土間に入ると、光と影の境界線をつくるようなガラスマリンバがある。ガラスマリンバからの研ぎ澄まされた精霊の声や薄闇と調和するようなホワイトノイズが共鳴するインターベンションパフォーマンス。

林直 (招待作家)

きおくの記録 ～みかのはら～ / 写真



撮影のために訪れた瓶原は優しく迎え入れてくれた。そこに暮らす人びとが自然と対峙して丁寧に紡ぎ上げた物語がそこにはあった。「木津川アート賞」受賞。

協力：株式会社プロサングエ / サイバーグラフィックス株式会社 / ブルームギャラリー
大阪芸術大学写真学科 / 瓶原地域の皆様

島本彩

Things of Nagara's house / 平面・銅版画(メゾチント)



空き家になって数十年、ここで暮らした人びとの思い出が染みこんだもので溢れていた。それらを平面化して対話を試み、過去の記憶を繋ぎ止めた。

成田 直子

クニを見る、恭仁から見る／写真



心をのぞき見るように、瞳の奥に映るのは、かつての都の今の姿であり、誰かの特別な場所である。都を見つめるまなざしによって、過去と現在そして未来を繋ぐ。

協力：株式会社アライデザイン工芸

奥中 章人(招待作家)

相互・世界 / 山のあなた / 風と空気の柔らかい彫刻



恭仁京は、山の彼方にあった桃源郷で全国から人びとが行き交い、その繋がりから生み出されるダイナミズムを、全身をつかって知覚的に体験できる、空気をつかった作品。

協力：木津川市山城総合文化センター(アスピアやましろ) / 住化積水フィルム株式会社 / 株式会社アミテン
sensenci / 想芸館 / とよもり食堂
テクニカルサポート：akira_you / 西川元晴 / 吉川賢



鎮守の森にはそこにしかない風が舞う、風は木と音をつなぎ、音はひとと森をつなぎ、ひととひとを繋いでみせる。思わず心が洗われるサウンドアート作品。

紗でできた結界を抜けると枝や瓦、盃わんが散らばっている。訪れた人がそれらを自由に組み合わせて茶室を作りあげ、茶会を楽しむ。プリコラージュ作品。

協力：尾崎林産工業株式会社

マルガサリ

木津川ワヤン「エイコーン」 / ガムランと影絵によるパフォーマンス



恭仁小学校の子どもたちや保護者をはじめ、地域の人たちとワークショップを重ね、物語から音楽、道具まで、全てを0から作り上げた影絵芝居。

画材提供：ホルベイン画材株式会社

堀内 恵

真朱、群青 / ダンスパフォーマンス



古代からひとは苦しいことがあっても生きてきた。そして自然豊かな瓶原に都を作ろうとした強い意志、静と動が混在するこの地を主題として踊り続けた。



恭仁京のひとつとよによる声映像になり砕け散っていく。過去の「うた」と現在の「こえ」の協奏。



恭仁神社の鳥居をくぐり抜け、神域の社殿に向かうと鳥のさえずりとは違うかすかな音が迎えてくれる。かつてこの地に生きた人びとの声か、心音か。



赤い紙糸で人びとの縁を永遠に結び、1300年前からこの地で繋がってきた歴史を振りかえる。円形の作品は恭仁神社の拝殿に置かれ、縁、宴、円の三つを表している。「市長賞」受賞。

わずかな風でも揺らぐ130本の杭、1本を100年として1300年前を偲ぶ。ここも恭仁京があった頃と同じ風が吹いている。恭仁神社と対話するサイトスペシフィックアート。



神事の祭具として使われたという鏡を全身にまとった狛犬は恭仁神社本殿を背に凜として立つ。神の宿る森から差し込む木漏れ日を映しながら。



白い玉は人びとの魂。井戸水に浮かべると溶けてゆくお守り、その包み紙は来場者が糸に付けていく。庭には恭仁京に自生していたシムラ草、空間を神の場にした参加型作品。「市民賞」受賞。



鎌倉時代から流れている大井手用水、瓶原を流れる小川や木津川の音風景(サウンドスケープ)、おくどさんに残されていた瓶を奏でた音の二つの作品に凝縮。

おとなしく実っているはずの南天の実がおどろおどろしいほどに躍動している、まるで自然を荒らした人間に襲いかかろうとするように。